

平成27年2月2日	
資料提供	
担当課	競技力向上推進課
担当者	植田
電話	073-441-3691



2015 紀の国 **わかやま国体**
第70回国民体育大会 躍動と歓喜、そして絆

2015 紀の国 **わかやま大会**
第15回全国障害者スポーツ大会 躍動と歓喜、そして絆



Team Wakayama News

【第29号①：平成27年2月2日発行】

第70回国民体育大会冬季大会 (アイスホッケー競技、スケート競技終了時点)

男女総合成績 56点 19位 (参加得点20点含む)

女子総合成績 38点 12位 (参加得点10点含む)

2015ぐんま冬国体 競技結果

【アイスホッケー競技】

ベスト16 (1回戦) 対沖縄 7-3 勝利 (2回戦) 対長野 0-5 敗退

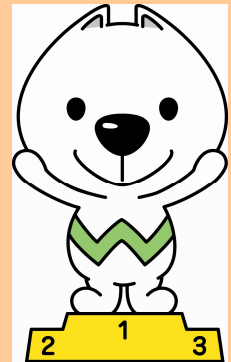
【スケート競技】

○スピードスケート 成年女子

大森亜珠香 (JA紀州)	500m	2位 (7点)
梅川 風子 (JA紀州)	500m	8位 (1点)
大森亜珠香 (JA紀州)	1000m	5位 (4点)
歸山 麻衣 (JA紀州)	3000m	4位 (5点)
藤村あゆみ (株式会社タカショー)	3000m	5位 (4点)
梅川、歸山、藤村、大森	2000mリレー	2位 (7点)

○ショートトラック 成年男子

坂爪 亮介 (株式会社タカショー)	500m	3位 (6点)
坂爪 亮介 (株式会社タカショー)	1000m	7位 (2点)



(ショートトラックで2種目入賞の坂爪選手)



(リレーで準優勝したスピードスケートの4選手)
 (上段左から) 歸山選手、大森選手
 (下段左から) 梅川選手、藤村選手



(本国体初勝利を果たしたアイスホッケー和歌山県選手団)

※スキージャンプは、2月20日(金)～23日(月)群馬県利根郡片品村で開催されます。



【監督・選手コメント】

○津田兼司 監督（アイスホッケー）

2回戦の長野県には負けてしまいましたが、県勢初の勝利を収めることができうれしく思います。我々の戦いは終わりましたが、紀の国わかやま国体はこれからが本番です。我々もチーム和歌山の一員として全力で応援したいと思います。たくさんのご声援ありがとうございました。

○清水 力 選手（アイスホッケー）

応援ありがとうございました。長野県には負けてしまいましたが、この1年間ではベストゲームだったと思います。来年の国体に向けてイチからスタートしたいと思います。

○豊浦佳司 選手（アイスホッケー）

長い活動休止を経て、国体初勝利を収めることができました。今回の我々の頑張りが、秋の紀の国わかやま国体の好成績に繋がってくれればうれしいです。

○池田五十一 監督（スケート）

このような素晴らしい結果を出せたのは女子4人が心をひとつにして頑張った事が一番の要因です。この結果は秋の大会に繋がったと思います。ありがとうございました！

○大森亜珠香 選手（スピードスケート）

500m決勝では、前を走っている選手とぶつかるというハプニングがあり、一瞬頭が真っ白になりましたが、今までサポートしてくれた方や応援してくれた方のために、根性でがんばりました。今大会は、全員で協力してまとまったことと、良い意味で緊張感を持ちながら気負わず臨めたことが、結果に繋がったと思います。秋に開催される紀の国わかやま国体に出場される方々も自分を信じて試合に臨んで下さい。

○梅川風子 選手（スピードスケート）

500mの8位は、少し悔いの残るレースでしたが、リレーで、2位に入賞することができて良かったです。応援してくださった方々に感謝します。ありがとうございました。

○歸山麻衣 選手（スピードスケート）

1500mで予選敗退しましたが、その悔しさを力にし、3000mで入賞することができました。リレーは、4人で表彰台に立てて、夢のようでとてもうれしいです。

○藤村あゆみ 選手（スピードスケート）

楽しんで滑るという私の目標が達成できて、最高に楽しかったです。リレーは、チーム力で2位に入賞することができたと思います。チームのみんなとサポートしてくださった皆さん、ありがとうございました。

○坂爪亮介 選手（ショートトラック）

500m3位という結果には満足していませんが、1000m入賞を含め、秋に開催される紀の国わかやま国体に繋げることができたと思います。応援ありがとうございました。

○星香里 総監督のコメント

いよいよ紀の国わかやま国体男女総合優勝に向けた闘いが始まりました。

今回は、アイスホッケー競技とスケート競技で56点（参加点20点含む）を獲得することができました。スピードは、女子選手4名がチーム力を発揮し、全員入賞に加えリレーで準優勝してくれました。ショートトラックは、大けがから復活した坂爪選手がオリンピックのプライドを見せ表彰台に上がってくれました。アイスホッケーは、県外のリンクで深夜に練習を重ねた熱意が伝わるゲームをし、一勝をあげてくれました。全選手が今年の国体での優勝に貢献したいと最後まで諦めず全力で戦ってくれ、感謝の気持ちでいっぱいです。今回の2競技の闘いは、天皇杯獲得に向かう私たち「チーム和歌山」に勇気と自信を与えてくれたと思います。この追い風をまずはスキーが受け、さらに秋の本国体に繋げ、全員で優勝を勝ち取りましょう。

心ひとつに頑張ろう！ チーム和歌山！

